



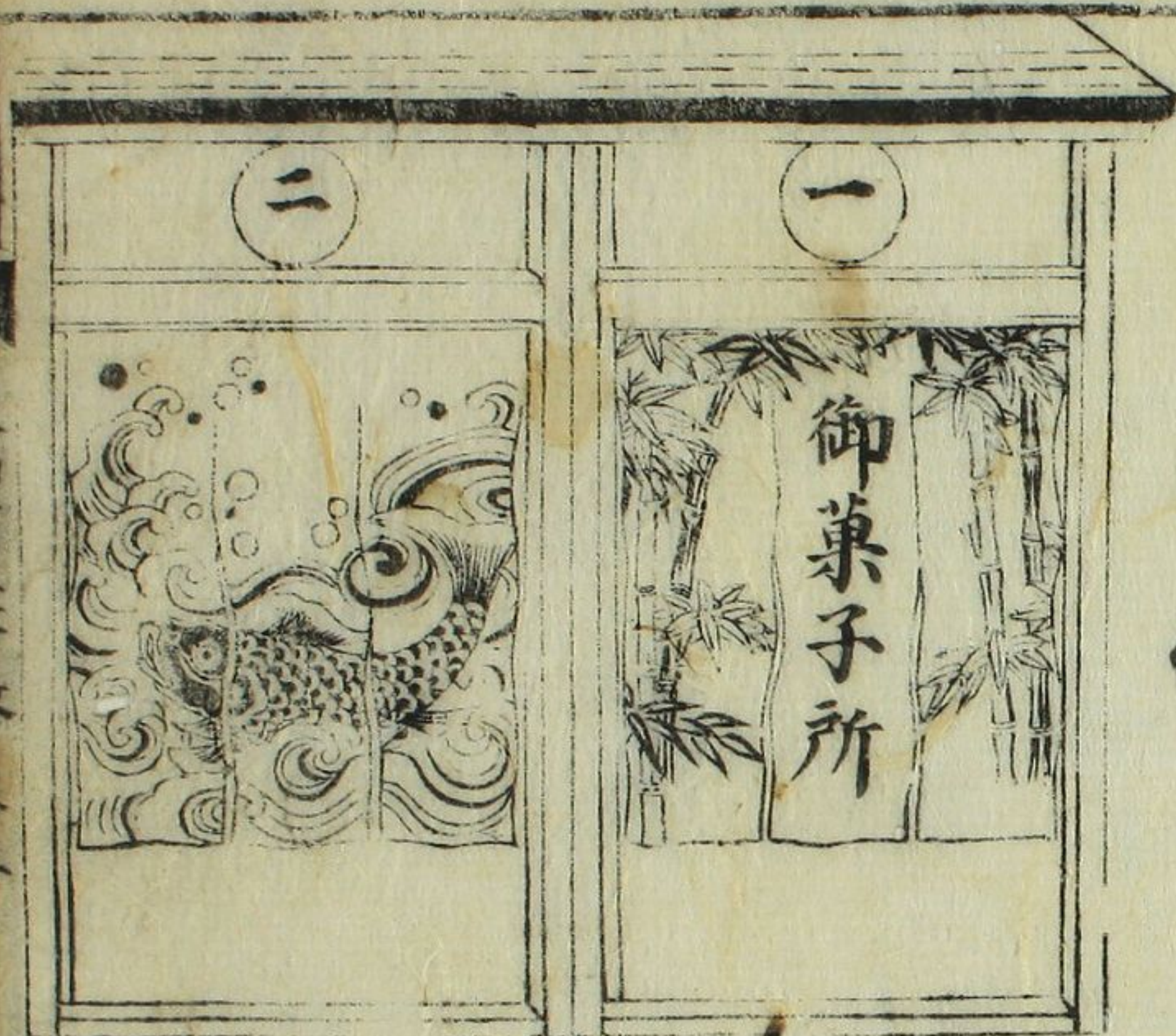
特 別  
14  
3157  
39  
(5)



14  
3157  
29  
157

日本永代花

目錄



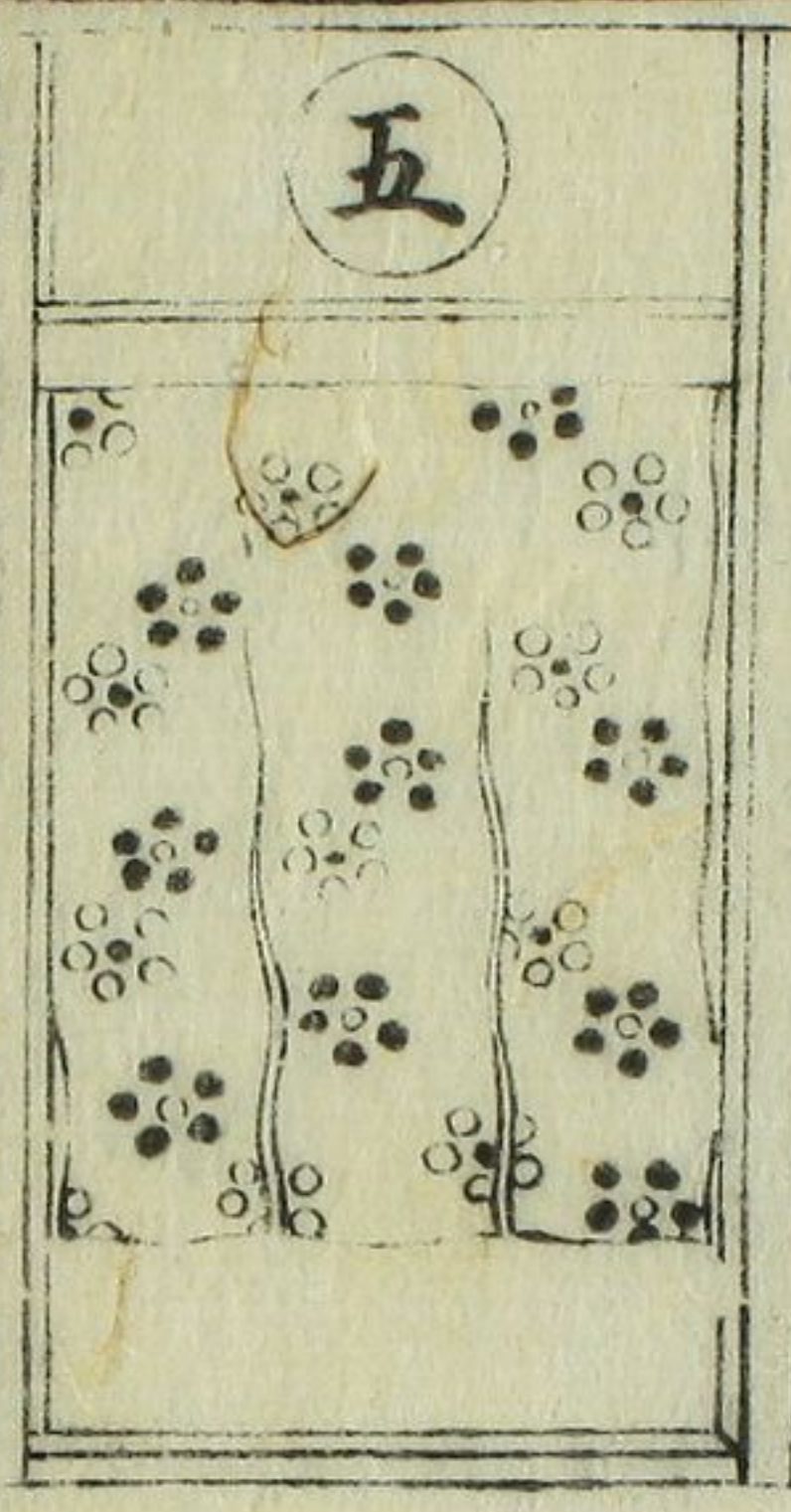
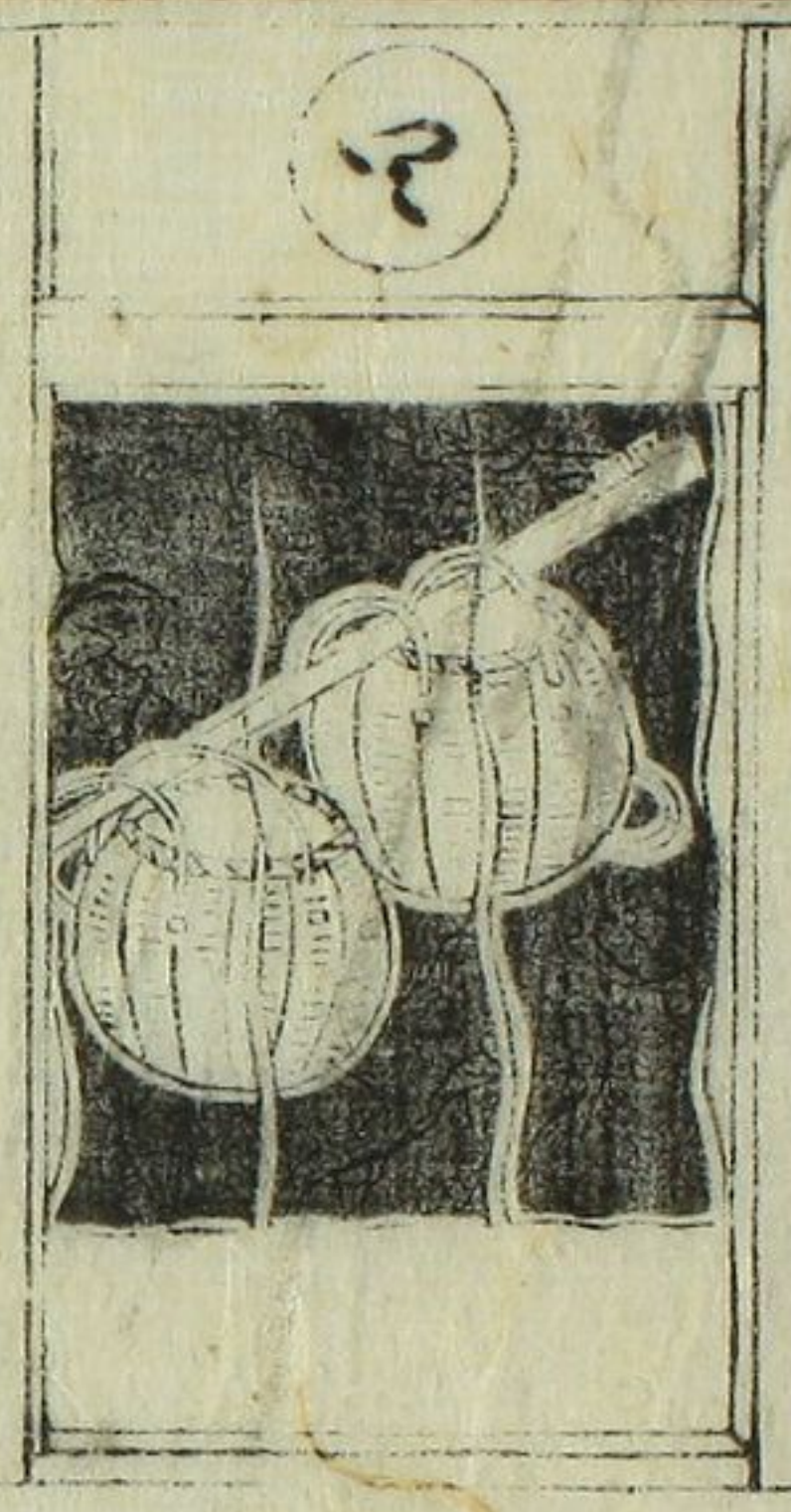
卷五

世に流るる御菓子所

世に流るる御菓子所  
世に流るる御菓子所

世に流るる御菓子所

世に流るる御菓子所



大豆一粒乃老乃裳  
大和宗長考記本傳  
備後乃ももさう

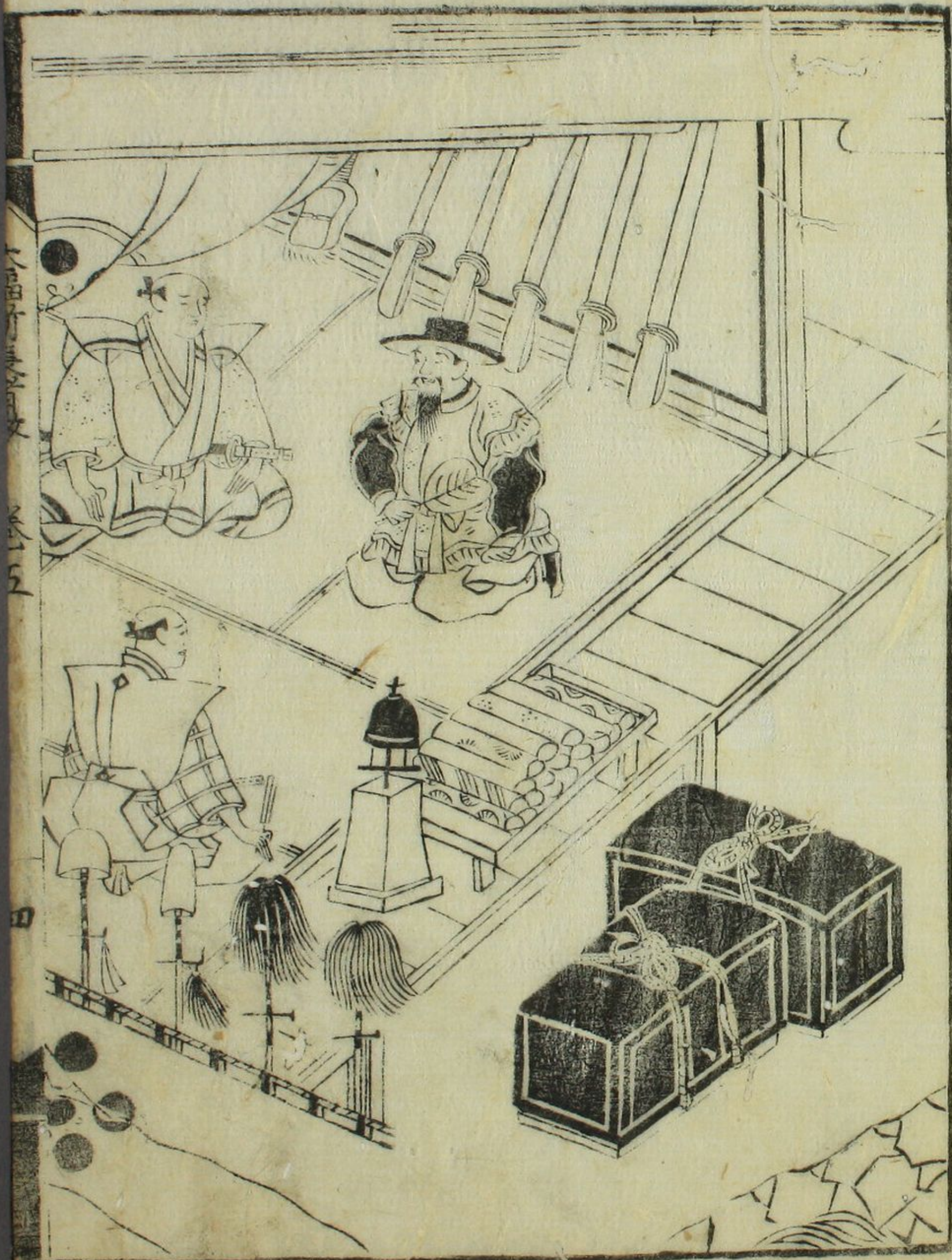
乃乃塩乃夕の油桶  
常陸乃かたの金  
人いれくの程の叶

三女下 咲乃  
作列乃かたの悟  
義命乃九乃の持

中一 ひとりをたの時計細

唐土人の時計にて世に翻とて現る泰西の浦  
考して秋の月見の浦に出まへ海堂乃咲山と  
三月の節句あまふぬいりさかまらぬ唐土乃風俗  
中しく和物よそびまひも唐土人あり年中之ま  
かつて是れ乃枕小ひぐく時計の細は掛垂り  
まふたつては継も後孫乃まにまてりてやうく  
三代目に於て今世の系を承るゝのまにま  
らひのりあわぬ算用をうらまへに付て  
是と南無なりはなす菓子金餅梅乃仕掛  
うらまへに於て唐土を介する女乃  
個々の事よそ年下妻ありて是れ  
中一今の上方小と是とありて





大和親長考

卷五

三









後乃里小山津屋をそく力業乃後乃親代のり油屋あり  
 なる家藏乃掘方と居ひ其用乃赤藤好い家の徳の神  
 倉よまよりりあひし小作年小忍い志をせりすや  
 以才小淋しくあわく毎年掘多魚りて自掘産乃  
 善とすねやう小のりあくとり油と終ぬ儀小首の實  
 ぶ瓜行乃甲斐あくまとも力小ありては其業何れ持乃  
 明ぬ世後り小後乃下小真いあれし郷あつて剛と燃  
 孫治江節の徳いれと後いともあつては巷角乃と換  
 とかやんは運半と流車乃包り合せし二交家の  
 業乃行乃ゆりし高乃の器く輕船為さす系通ひ  
 乃り小真乃徳く結父小賣れあつて西乃んたりて  
 流の扱也乃即し其名と鳴く用あつ方よはしんといわ  
 符小ありとくか流乃里乃り振くりて丹波江に

約小もく小輕船傳く一日小かよりりあく賣るる程乃  
 思味考多のしひあつて何輕船と外乃ふのい實より  
 高乃の只志小せり大乃りさうしそ流さうしと地り  
 とく道乃小不系二下しそと自由個乃れ小系乃屋  
 不乃りさらかつて人振舞小も是しそ流と時乃  
 小味花のし程あつて流よありと金振寄りしして返  
 留れんせ成出しあまこの名代と抱いぬ終日乃計乃ハ  
 若れ能賣るるのいひ出しと入り多し同格と自りし計乃  
 とくく新立乃家の名取とく油屋箱乃流藏とく人乃  
 深乃坂村神乃流箱乃しては乃重乃小妻乃のり流長  
 く同乃相藏のり流乃んて流乃いしと流乃多乃乃  
 云乃乃おくし子乃乃の而乃あれとく其れ細乃賣乃運  
 いた小具是の實乃よまくと母乃收乃るまくとは乃乃









大福新長者巻五



小づかしく金指のすいさう女書付あててとれく飽  
果もあつた親類も後指の使りよあつたゆと今  
と酒で波とあつた家と見限り我里く小づかぬ  
ふ七百貫目れ指の一代乃始末して終一多れ門は  
いれいさく沢山よや指の若くすい九助一坐指指小  
着の指解いひあつた改めしてとれぬ言十二乃厄年小指  
入下指一あつためして買はしめりい色指もあつた  
ととて小づか指親仁乃力のむらとていおれ毎り乃外  
もい親親柄小指柄乃月費の相二線親早換ひの中志  
小麻乃角の指付長門練の糸地乃中花是あつてい世は  
奥いとい色指あり一九之助是と漢よりいひとてさ  
と背の親親は代とととれく小指もととととととと  
といあつた入下指一入背指い入下指一入背指一入背指

と指のうら小づか指のあつた親類も後指の使りよあつたゆと今  
と酒で波とあつた家と見限り我里く小づかぬ  
ふ七百貫目れ指の一代乃始末して終一多れ門は  
いれいさく沢山よや指の若くすい九助一坐指指小  
着の指解いひあつた改めしてとれぬ言十二乃厄年小指  
入下指一あつためして買はしめりい色指もあつた  
ととて小づか指親仁乃力のむらとていおれ毎り乃外  
もい親親柄小指柄乃月費の相二線親早換ひの中志  
小麻乃角の指付長門練の糸地乃中花是あつてい世は  
奥いとい色指あり一九之助是と漢よりいひとてさ  
と背の親親は代とととれく小指もととととととと  
といあつた入下指一入背指い入下指一入背指一入背指

小づかしく金指のすいさう女書付あててとれく飽







あらうこりけと添られぬれおぼくひこころおぼく  
 中山男のさう津の葉葉乃乃高と添ふく技指と分垂  
 多るに後七八人もさく物かきまされと案へんかた  
 せふれいめいさくもぬあく里乃月目とかさぬい  
 森崎権さく子男さくさくさくさくさくさくさくさく  
 とおれどこのやめいさくさくさくさくさくさくさく  
 へ乃子さくさく書八の葉葉いさくさくさくさくさく  
 新たあさく子男の中いさくさくさくさくさくさく  
 大乃乃令指さくさくさくさくさくさくさくさく  
 多れい那本乃年後指乃ゆり物は出して時言油江  
 く懐小入いさく乃ゆり町小さくさくさくさくさく  
 八山町小のりさくさくさくさくさくさくさくさく  
 新小舞小気江指しゆら自か指さくさくさくさく

経乃子おひめさくさくさくさくさくさくさくさく  
 さゆさくさくさく人男おさくさくさくさくさく  
 三白あつ物いさくさくさくさくさくさくさくさく  
 かしさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 乃頭さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 てと扶抱とゆり無さく用乃さくさくさくさくさく  
 氏勇乃さくさく年中我さくさくさくさくさくさく  
 勢りあさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 せさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 六神田井前さくさくさくさくさくさくさくさく  
 八千面新さくさくさくさくさくさくさくさくさく  
 と味線さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

て浪紙巻てけしる為愛人今小梅笠おしし新曲の甚八  
又九郎がき店小入くやうく足せく抱へられ物か  
もくも後小つづられしとそれ小のし多美士船やが  
字た巻の心乃しとく素る小十知字とり色先知又百  
時小わいぬ又後生結ぐい乃巻た巻の心乃しとく  
とありおれが染と天佛乃わたりしと我とんせめ  
くしてとくく踏ねの心乃しとく急清知れと丸し  
ぬ命おれかくいもとり多る是とく小梅の巻外  
なして後巻あつくぬめりゆりあられ是れと常と  
不乃乃のありぬがあしとく人小とられく義用とい  
その乃の然ありふあ、お梅乃乃武士のりる町人の  
用は後れに計の事ぬやう小まきまめ小志を付  
と金乃も漁人のあまし乃みとれり

中八 三ふりり 鳴乃かま

可年居乃わふとゆしとありぬとわしと  
生れおもかまのしと付くおしと今性乃娘と好む世  
乃習ひといありぬとゆ小梅と今町の仲人  
髪生志と流しそと娘みり片梅とあつと  
ししと右引状い人乃孫がいと替れり剛流小流  
然乃川とに久未乃更山と世帯より年月  
長志とありあ他小かくれりお記合小立つて  
志乃ぬ大分派あ巻と衣巻る二代小のり  
山おいし梅とめと流れと美と乃早小入る  
と奈とやめと棟と世と並にいん目小と  
と流麻袴あして三十年いし礼と勤め  
際何流の町記たかまのしと流美の七川  
小流小流小流

若由の死多しあり外に死すも亦多しと云ふ  
 是れりね死合と云ふが死乃に九川持く富をあれ  
 是又國乃にさりぞりし弟をいひさるありよあはれ  
 子小者た師とてあり十三才乃時鼻紙小小扱介  
 と見く幼直切播列乃網干小扱ありし許小をり  
 是乃波をぬと云ふ語とらんあしこ我子の指くまは  
 二子と見立二千六と云ふ代並小と云ふせもに  
 始末と云ふ弟を履といふ指ひ事め此程れ用小里と云  
 と云く専小入是と子かゆて家と海お意の極  
 是もさるし世と云ふり此程格もつし此女房か  
 娘小よりこれし此世の廣くさふまゝありはるる  
 と云ふ師と云ふは隠居と云ふは出と云ふは  
 全振るに任と云ふは出と云ふは掛と云ふは

ざくろに枝埋物来乃と云ふ格も仕出  
 掃り自ら久抱びやめく酒をく清く寝り外  
 御亭主因と出さばまてと云ふは町の親小座とトて  
 慰に仕面と云ふ小志の地集是のい家乃個のわ  
 り格に程笑ひし由肉笑乃格も此に記る情の心  
 わささりおして親乃子小ゆををたるの意と礼とれ  
 此あり格分敬を仕けても大さの母親ひと向り  
 とぬけなと云ふはさるる程乃意をひと云ふ  
 そく烈志記のそまがらあ温記の然なりけ弟屋のまぬ  
 お果られしは埋物か来ま志と下向小系大坂乃格  
 山乃志やまする恩格と云ふは決や後せいのと云  
 小わりの格もいふは物と云ふはあはれは率主は時  
 強記出作病と云ふはあはれ意生ありかすとはかた



不  
和  
新  
大  
和  
卷  
五

乃り若女乃二乃小をまりと日毎小荷を担ぐ小荷  
 こゝろ慈小ほこるび計と慈小懐くとも海  
 けが小任のり金銀小傍まれ内証の福小邪  
 かりし時やしく愛是く務む記高貴大辨小代てお  
 智屋小かして付廣く入乃金銀かごりも多く貯りあかこ  
 かここをぬり志と二夜育乃り袋小九張く一紙年  
 乃書入乃内証の強固大晦日乃枕打おる海お徳拂也  
 と育一紙と紙の目よりい自由かりこ一歳とあはに海  
 徳付く異用仕衆の七門乃捨れ鳴時よりかくちやん  
 一みあきておる急びと突叫込しは急かすさぬ夫をくハ  
 突こく度多るそれりるど那く門と扣く無原屋こい  
 海ろく人半袋持せこそ小判を二百ある来き計しこ九出  
 先程の行旅の因に女中の置板急派と出多しおあてり代取多る

